

問1 元軍の再来に備えて、北条時宗が博多湾岸に築かせた防壁を何という？

1. 引付衆 2. 守護代 3. 検地帳 4. 石築地

問2 平安時代から存在した私有地で、その地からの収穫を主な収入源とした土地のことを何という？

1. 国衙領 2. 公領 3. 屯倉 4. 荘園

問3 モンゴル帝国が中央アジアから支配下に置いた、西側の地域はどこ？

1. ヨーロッパ東部 2. 東南アジア 3. 西アジア 4. 地中海沿岸

問4 13世紀後半、モンゴル帝国による二度の襲来を受けた出来事を何という？

1. 文永の役 2. 元寇 3. 弘安の役 4. 承久の乱

問5 鎌倉時代、元軍による侵攻の際に、従来の武士の戦法である一騎打ちを行うことで苦戦を強いられた、当時の武士階級の呼び名を何という？

1. 御家人 2. 荘園領主 3. 国司 4. 地頭

問6 北条時宗が執権として防戦にあたった、大陸から攻めてきた軍勢を何という？

1. 宋軍 2. 元軍 3. 清軍 4. 鎌倉幕府軍

問7 イタリア出身の旅行家で、フビライ・ハンに仕え、日本を『黄金の国ジパング』としてヨーロッパに紹介したのは誰？

1. イブン・バットゥータ 2. マルコ・ポーロ 3. マテオ・リッチ 4. ザビエル

問8 将軍と御家人の関係において、御家人が果たすべき最も重要な任務の一つである、戦いに参加する義務を何という？

1. 公事 2. 夫役 3. 番役 4. 軍役

問9 鎌倉時代、将軍に代わって幕府の実権を握り、代々その職を世襲した一族を何という？

1. 源氏 2. 藤原氏 3. 平氏 4. 北条氏

問10 十字軍の遠征が活発に行われた時期は、日本の歴史ではどの時代にあたる？

1. 平安時代 2. 室町時代 3. 江戸時代 4. 鎌倉時代

問11 モンゴル帝国（元）の遠征を受けた際、当時の日本を統治していた幕府を何という？

1. 平安京 2. 鎌倉幕府 3. 室町幕府 4. 平氏政権

問12 鎌倉時代、日蓮が開いた新しい仏教の一派を何という？

1. 浄土宗 2. 臨済宗 3. 日蓮宗 4. 浄土真宗

問13 源氏が平氏を滅ぼした最後の決戦が行われた場所はどこ？

1. 兵庫県神戸市 2. 長崎県平戸市 3. 福岡県福岡市 4. 山口県下関市

問14 鎌倉時代に臨済宗を日本に伝えた僧侶は誰？

1. 日蓮 2. 道元 3. 親鸞 4. 栄西

問15 座禅を通して修行し、自己の心を見つめることを重視する、鎌倉幕府から保護を受け武士に広まった仏教の一派を何という？

1. 禅宗 2. 浄土宗 3. 浄土真宗 4. 日蓮宗

答え合わせ・解説

問1	答え 4 石築地	執権・北条時宗は、博多湾の海岸線に沿って高さ約2メートルにも及ぶ石の壁、石築地（元寇防壁）を築かせました。これは騎馬武者が元軍の上陸を食い止めるための強固な障壁として機能し、後にくる元軍の再襲来（弘安の役）で大きな効果を発揮しました。
問2	答え 4 荘園	荘園は、中央の有力者が支配する広大な土地です。土地からの収穫物である「年貢」を領主に納めることで成り立っていました。鎌倉時代には、この荘園に地頭が送り込まれたことで、元の持ち主である領主と地頭との間で支配権をめぐる対立が絶えなくなりました。
問3	答え 1 ヨーロッパ東部	モンゴル帝国の支配はアジアにとどまらず、西へ大きく拡大しました。中央アジアを経て、東ヨーロッパにまで達しました。これにより、ユーラシア大陸の東西をつなぐ広大な支配圏が確立されました。
問4	答え 2 元寇	1274年の「文永の役」と、1281年の「弘安の役」の二度にわたり、元軍が日本に襲来しました。幕府は御家人を動員して防戦し、九州各地で激しい戦いが繰り広げられました。特に弘安の役では、日本側が築いた石築地などの防衛と暴風雨も重なり、元軍は退却しました。
問5	答え 1 御家人	彼らは平時の警備や戦時の戦闘を担う、幕府の軍事的基盤でした。元軍との戦いにおいては、少人数での一騎打ちを重んじるこれまでの戦い方とは異なり、集団で組織的に攻めてくる元軍に対して非常に苦戦を強いられました。
問6	答え 2 元軍	執権である北条時宗は、この要求を拒否しました。その結果、元は二度にわたって日本へ大軍を送り込みました（文永・弘安の役）。時宗は御家人を指揮し、激しい防戦を行いました。元軍の高度な戦術や兵器に苦戦しましたが、最終的に元軍は撤退しました。
問7	答え 2 マルコ・ポーロ	マルコ・ポーロはベネチアの商人・旅行家で、元のフビライ・ハンに長く仕えました。帰国後に執筆した『東方見聞録』の中で、日本を「黄金の国ジパング」として紹介しました。これを見たヨーロッパの人々は、海路によるアジアへの関心を高めることとなりました。
問8	答え 4 軍役	御家人の重要な義務が軍役です。これは将軍から命じられた戦場に馳せ参じ、自ら武具を揃えて戦う義務のことです。これに加え、京や鎌倉を警備する番役などの奉公がありました。これらを通じて、御家人は自分の領地を守り、主君からさらなる恩賞を得ることを目指しました。
問9	答え 4 北条氏	北条氏は、幕府の最高職である「執権」に就き、将軍を補佐・監視する形で政治を行いました。これにより幕府の実質的な支配権を確立し、数世代にわたって安定した統治を維持しました。
問10	答え 4 鎌倉時代	十字軍が始まった1095年は日本で院政期（平安時代末期）にあたりますが、戦いが本格化した12世紀から13世紀にかけては、ちょうど鎌倉幕府が成立し、発展していく時期にあたります。
問11	答え 2 鎌倉幕府	鎌倉幕府は「御恩と奉公」という主従関係を基盤に、地頭や守護を配置して日本全国の武士を統制しました。13世紀後半に元からの脅威にさらされた際、執権の北条時宗のもとで二度にわたる侵攻（元寇）を撃退しました。
問12	答え 3 日蓮宗	日蓮が開いた日蓮宗は、法華経というお経の題目を唱える「南無妙法蓮華経」を重視しました。他の宗派を厳しく批判する強い姿勢が特徴で、時の権力者に対しても教えを説くなど、熱心な布教活動を行いました。
問13	答え 4 山口県下関市	1185年、現在の山口県下関市にあたる壇ノ浦で、源義経率いる源氏軍と平氏軍が激突しました。この戦いは海戦で行われ、幼い安徳天皇を連れていた平氏は敗北し、一族の多くが滅亡しました。
問14	答え 4 栄西	栄西は二度中国へ渡り、そこで修行して帰国後に臨済宗を伝えました。彼は座禅によって悟りを開くことを説き、武士たちの間に広く支持されました。また、宋からお茶の種を持ち帰ったことでも有名です。
問15	答え 1 禅宗	禅宗は、厳しい修行や座禅を通して、自らの内面を見つめることを教える仏教です。特別な書物よりも、師から弟子への心身を通じた教えを重んじました。その簡素で厳格な生活態度は、武士たちの気風と非常に相性が良く、幕府の庇護もあって急速に普及しました。